

<http://www.kokushikan.ac.jp/library/library.html> ☎03-5481-3216

いま何故「松陰」なのかー。

本学は今年創立90周年の節目にあたり、ダイナミックに変貌を遂げようとしている。

第2の建学といってもいい。

吉田松陰ゆかりの地に創立し、ときを経て学びの場であり大学の“礎”である

この図書館から、沸き出でる想いの一端を読者にお届けしたい。



松陰

CONTENTS ■復刊の辞:「人学ばざれば道を知らず」(図書館長) ■「学習基盤としての図書館」:図書館事務部長 ■ニュース&イベント:学生バイヤーによる選書ツアー／オープンキャンパス ■b-Log～架け橋～ ■新着図書紹介 ■お知らせ

国士館大学附属図書館報
show-in
第 17 号
2007 年 11 月

「人学ばざれば道を知らず」

図書館長 廣野 行甫

●「松陰」復刊にあたって

「松陰」という小冊子があって、学内に配布されていたが、最近とんとこの小冊子を見受けなくなりました。国士館大学附属図書館の“館報”である。昭和56年(1981)4月に創刊号が出され、以降定期的に刊行され配布されてきたものだが、とんと見受けられなくなったのは、鶴川図書館の新築に続いて、平成10年(1998)、新たに中央図書館が建設竣工して、通常の業務の他に、開館に向けての膨大な量の複雑多岐にわたる作業を処理しなければならなかったため、“館報”の刊行を一時中断せざるを得なくなったためであるらしい。

現在でも業務量は一層増大し、新たな時代のさまざまな要請にも応えなければならず、加えて大学図書館が抱える極めて厳しい内実もあり、描いた理想になかなか到達できないでいるのが実状であります。描いた理想を現実のものにするためにも、そろそろ館報「松陰」の活用を考える必要があるのではなかろうか、と協議を重ね、その結果復刊することを決定いたしました。

立派な設備と機能を備えたすばらしい中央図書館が建設され、古代ローマの哲学者セネカの言葉、ヴェリタス ヌンクアム ペリット「VERITAS NUNQUAM PERIT (ラテン語: 真実は決して滅びず)」を建物正面に高く掲げ、他大学からも羨ましがられ、良き見本として高い評価を受けてきたものの、本学中央図書館を参考に、他大学も図書館の充実につとめ、最近の本学図書館は追いつかれ、追い越されて、今や26年前の「松陰」創刊号に当時の大塚芳忠図書館長が書いておられる「館報発刊のあいさつ」が、全くそのまんまあてはまるのが現状であります。おそらく小生

も全く同じ内容の文章を書いたにちがいありません。

そんな中で、限られた経費と人員で黙々と、とにかくよく働き、大学のため、学生のため、教職員のため、地域社会のため、そして協定校や公開利用者のため、よりよい価値ある図書館であるように、と館員一同日夜奮闘しております。さまざまな工夫をし、改善すべきは改善し、足りない経費の中で節減にも努め、しかも必要な新規の企画の構築にも、厳しい内実の中で挑戦しております。

「玉不琢不成器、人不學不知道。

是故古之王者、建國君民、教學為先。」

(玉琢かざれば器と成らず、人学ばざれば道を知らず。是の故に古の王者は、國を建て民に君たるに、教学を先と為す。)

これは、「禮記」(学記篇)の文であります。玉も琢かなければ有用な器物にならないように、万物の霊長だと考えられている人も、きちんと学問をしなければ、人ではなくなってしまう。だから、国家経営のための最優先事業は、教学の設備を整えて人を教育することであった、と。

大学図書館は、教学の中核を担う最重要の機関であります。本学をあげて国士館大学附属図書館の一層の充実と進展にご協翼くださいますようお願い申し上げます。復刊の辞といたします。

平成19年 立冬

(ひろの・ゆきを＝文学部教授)

「学習基盤としての図書館」～私立工科系大学図書館委員会講演から～

図書館事務部長 植田 英範

去る 7 月 20 日（金）武蔵工業大学世田谷校舎において、私立工科系大学懇話会の図書館委員会（14 大学参加）が開催され、その研修の部で私（筆者）は、「学習基盤としての図書館」と題し約 1 時間の講演を行った。以下はその要旨である。

●IT 格差＝経済・教育格差

『The Expanding Digital Universe』（膨張し続けるデジタル宇宙＝白書＝出典；IDC）によると、年 161 ビリアンギガバイトという膨大な情報量（本にすると、日本全土を約 1.3m の高さで埋め尽くす量）が毎年 50% を増す勢いで世界で生産されているが、その 1 割程度しか価値化されていないという。Google や MS の急速な e-Book 化と併せ、図書館は将来どんな役割を担わねばならないか。

その一方で、10 数年前までトップを占めていた我が国の経済力や教育力は、軒並み 10 番目以降に脱落し中国や東欧諸国の後塵を拝している。ここでも IT 活用度の差による影響は甚大であると同時に、欧米との格差では図書館の IT 化が顕著である。こうした国際社会との比較から、高等教育機関である大学に求められる情報化の充実によるところは大きく、今日の私大図書館は重要な局面を迎えているといつてよい。

現状は、コスト削減の壁などで決して順風満帆とは言えない。複雑化した社会を放浪する利用者から、いま学習支援という熱い期待が寄せられている。これに応えるため、図書館が、大学の特性と合致する適切なソリューションを早急に探さねば、大学がその存在価値を失うことになる。

●大学図書館の使命と‘RING’の役割

本学は、その答えの一つとして 4 年前に‘kiss’を開発し、今秋これがバージョンアップ（開発コードは‘RING’）される。‘RING’によって、本学図書館サービスは、学習教材・素材を含むユビキタスな学術情報ポータル、マルチメディア機関リポジトリのユニバーサル検索、モバイル対応、デスクトップとのクロスサーチ、‘RING’サーバ間横断検索等々、斬新な機能によって新たな展開が可能になった。図書館サービスは、これによって個人サービスにシフトできる体勢に移行したといえる。自分の著作物やダウンロード・複写による収集情報・素材などが、自動的に生成されるメタデータによって直ちに PC やモバイルでウェブ検索出来るだけでなく、大学等の機関リポジトリと同期する。つまり、学習者は思考が妨げられずに、身近で最も貴重な情報庫であるデスクトップから、各種データベース、WWW まで同一キーワードによるシームレスな検索が実現するので、調べもの作業や学習、付加価値情報の作成を効率よく行えるなど、知的生産活動において格段の向上が期待できる。

利用者の自律学習や付加価値創造、コンテンツ制作を支援する。これこそが、次代の図書館の主要な役割となるのではないだろうか。ここにお集まりの皆様においても‘RING’学術ネットワークへの参画などもソリューション候補の一つとして検討いただき、利用者にとって真に役立つ大学図書館改革へ共に力強く邁進していきたい。

お知らせ

■新着図書オスメリスト<11 月 3 週目の新着より>

中：中央図書館、鶴：鶴川図書館、多：多摩図書館



中：身につけよう！江戸しぐさ；「つまらない」と言われたい説明の技術（日経ビジネス人文庫）、「つまらない」と言われたい説明の技術（日経ビジネス人文庫）；東京大学応援部物語；壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別（新潮文庫）；教育管理職人事と教育政治：だれが校長人事を決めてきたのか；輝きはじめた女たち：20 世紀の化粧と旅；クックルとパックルの大冒険：マッコリ号に乗って統計解析の謎を解く開発と環境保護の国際比較：観光政策の視点から；設計・監理トラブル判例 50 選：法律・建築のプロが選んだ！ 鶴：子どもの「手」を育てる：手ごたえのある遊び・学び・生活を！不都合な真実：切迫する地球温暖化、そして私たちにできること；今昔：鉄と鋳物：日本刀・茶釜・大仏・鐘めぐり；日韓の言語文化の理解 多：少子化時代の多様で柔軟な働き方の創出：ワークライフバランス実現のテレワーク；H5N1：強毒性新型インフルエンザウイルス日本上陸のシナリオ；生きる力：「いのちの柱」を取り戻せ

■データベース情報

<新規トライアルデータベース>

●日経BPナビ トライアル期間 10/1～11/30

→ <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/> ※大学内の PC で検索できます。

LIBRARY NEWS & EVENT

■“学生バイヤー”による選書ツアーを実施

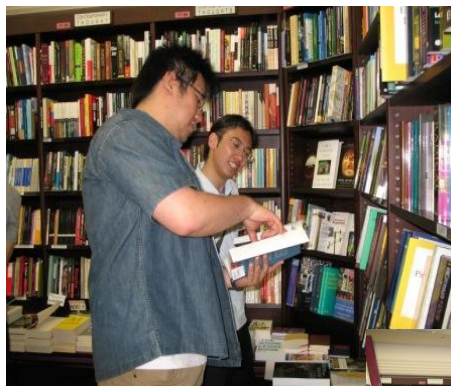
去る6月23日(土)、本学学生による「選書ツアー」(図書館主催)を実施しました。午後1時、会場である紀伊国屋書店新宿南店に、学内公募で集まった19名が集合。図書館スタッフと書店担当者から、事前の説明を受けた後、さっそくスキャナーを片手に2階から6階までの各分野で真剣な表情で品定めをしていました。(写真)

書店での選書は、本学では初の試みでしたが、募集期間が短かったにもかかわらず、あっという間に定員(20名)となり、「専門書を手にとって購入する機会があまりなかったので、とても貴重な体験だった」、「図書館のスタッフになった感じでよかった」など、参加者からの評判も上々でした。その一方で、「上限金額をもう少し上げてほしい」との要望も多く、今後の課題となりました。

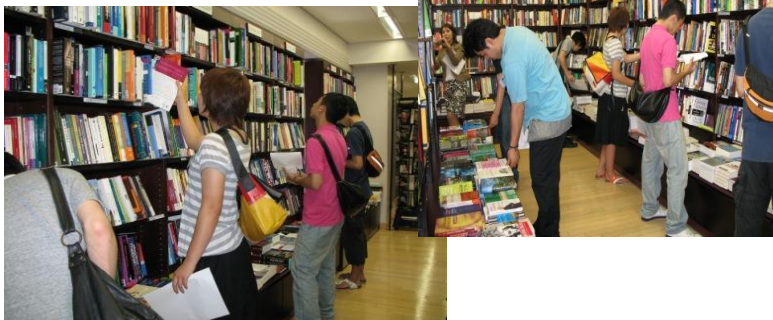
なお、選書した本は、中央図書館1階・新着図書コーナーで紹介しています。



▲紀伊国屋書店の担当者の方から選書前のレクチャーを受ける“学生バイヤー”のみなさん



▼専門書を左手に、スキャナーを右手に、ヨロコビに浸る(?)お二方。



▲みんなに読んでもらえる本を選ぶとなるとけっこうたいへん...。持ち時間の2時間はあっという間でした。

▲学生バイヤーたちが選んでくれた本は
新着図書棚に並べて、オープンキャンパスで披露しました。
(実は、図書棚も納品したばかりの“新着”です)

LIBRARY NEWS & EVENT

■オープンキャンパスで貴重資料を特別公開 「高校教科書に見る西洋思想」をテーマに

今年度1回目のオープンキャンパス開催に合わせ、7月15・16・17日の3日間、本学図書館初の貴重書の展示を行いました。テーマは「国士館大学附属図書館所蔵貴重資料 特別公開 ～高校教科書に見る西洋思想～」。

オープンキャンパス来客者である高校生を対象にした内容で、中世の政治・経済学の思想と理念を書き表した貴重書5冊を選定。実際に高校で使用されている教科書を並置して展示しました＝写真。



▲教科書と比べて見入る高校生たち



▲中央図書館グループスタディ室を会場に、5点の貴重資料を展示

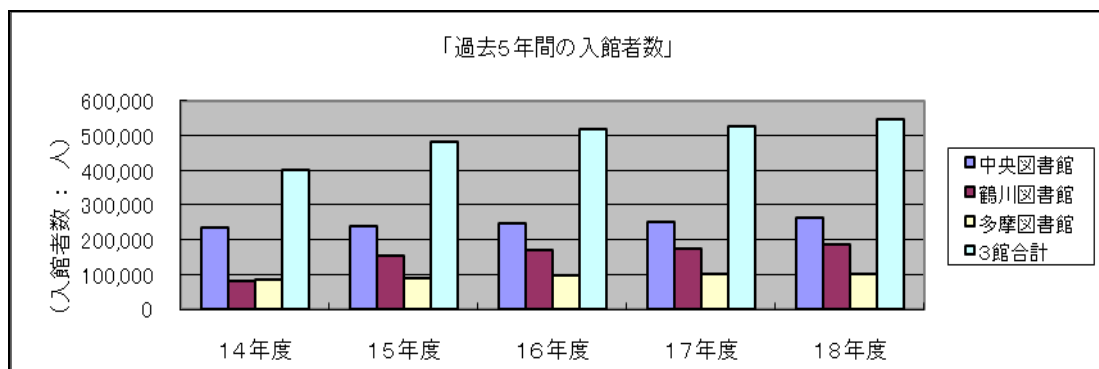


547,634 人

※平成 18 年度年間入館者数

●数字でみる図書館～利用統計から～●

	中央図書館	鶴川図書館	多摩図書館	3館合計
14 年度	234,722	82,765	84,683	402,170
15 年度	240,554	153,016	90,332	483,902
16 年度	248,285	171,182	98,429	517,896
17 年度	250,809	176,132	100,148	527,089
18 年度	263,660	184,592	99,382	547,634



b-Log:

～架け橋～

皆さんは、必要な情報を手にしたいとき、どのようにしますか？

インターネットで調べる。友人・家族・先生に聞く。図書館で調べる。etc....

世の中には、たくさんの情報が溢れており、その情報の取得方法も様々です。そのような中、私たち図書館員は、世の中にあるたくさんの情報と、情報を必要としている方々とを結びつける「架け橋」として日々勤めております。

リンク 1：レファレンス

例えば、「レファレンス」はその最たるものです。

レファレンスカウンターでは常日頃、「この資料はどこにありますか？どこの図書館に行けば見られますか？」「このことについて調べているけれど、どんな資料を見ればいいですか？」「新聞記事や判例などを調べたいんですがどうすればいいですか？」。

このような質問にお答えして、皆さんが少しでも早く情報にたどり着けるように、お手伝いをしています。

リンク 2：本の住所

図書館員の「架け橋」としての役割はそれだけではありません。

図書館の中には、書棚に本を並べている人や書棚に並んでいる本を点検している人などもあります。

かれらもまた、みなさんと情報を結びつける「架け橋」の役割をしています。

図書館の本は、ただ、並んでいるだけではありません。「請求記号」と呼ばれる、本の在処を示す住所表示したがつて並んでいます。住所表示にしたがつて本が並んでいないとその本を見つけることは大変困難です。

本を並べる図書館員はその住所表示にしたがつて本を並べていきます。

本を点検している図書館員はその住所表示に従ってきちんと本が並んでいるか点検をしています。

これも、みなさんがきちんと本という情報にたどり着くために必要なことです。



リンク 3：メンテナンス

そして、みなさんは見かけることのない図書館員もいます。

例えば、本に「請求記号」シールを貼ったり、コーティングシールを貼って本をカバーしたり...。この図書館員達もみなさんと情報を結びつける「架け橋」の役割をしています。

みなさんに見ていただく本に「請求記号」という住所表示を与えて、本の所在地を決めてあげます。本の所在地を決めてあげないと、その本はどこに並んで良いのかわかりません。どこに並んで良いかわからないと、その本を探すことが出来ません。これも、みなさんがきちんと本という情報にたどり着くために必要なことです。

リンク 4：データづくり

最後に、図書館にある本を探すために、皆さんはパソコンで蔵書検索をすると思います。その時に、検索するためのデータを作っている図書館員もいます。

この図書館員達もみなさんと情報を結びつける「架け橋」の役割をしています。

近年の図書館では「OPAC」と呼ばれる蔵書検索が当たり前になりつつあります。

OPACで蔵書検索が出来るのは、OPACのデータ作りをしている図書館員がいるからです。

これを整えておかないと、この図書館に本があるかないか探せません。

また、本があるかないか探すことが出来ても、検索結果に本の在処が表示されなければ本を見つけることが出来ません。

さらには、本の在処がわかっても、この本が誰かに貸出されているかどうかかわからないと、無駄に本を探してしまうかもしれません。これらのデータ作りも、みなさんがきちんと本という情報にたどり着くために必要なことです。

リンク 5：出会い

図書館員は、皆さんの目に見えるところ、あるいは目に見えないところでも、日々皆さんが情報にたどり着けるよう様々な努力をしております。

図書館の中でわからないこと等ありましたら、どの図書館員でも構いません。遠慮なくお声をかけて下さい。

本を介したみなさんとの出会いを楽しみにしております。

＜第1司書課・田邊朋子＞

開館スケジュール(12月～1月)

<中央:中央図書館(世田谷)、鶴川:鶴川図書館、多摩:多摩図書館>

●開館時間●日曜・国民の祝日・創立記念日・年末年始は休館

中央:月～金 8:40～21:20/土 8:40～19:20

鶴川:月～金 8:40～18:50/土 8:40～16:50

多摩:月～金 8:40～18:50/土 8:40～16:50

※最新の情報はHP開館カレンダーでご確認ください。

■休館日(日曜・祝日以外)

12/25(火):全館(24日の振替休校のため)

12/29(土)～1/3(木):全館(年末年始一斉休業のため)

1/ 5(土):全館(新年挨拶行事のため)

1/19(土):全館(大学入試センター試験のため)

■臨時開館

12/24(月):全館(授業日のため)

■開館時間の短縮

12/26(水)～28(金)、1/ 4(金):全館10:00～14:50

□□□□□□□□□□□□□□□□編集後記□□□□□□□□□□□□□□□□

私が就職した頃、「図書館報 松陰」の存在は知っていたが、まさかいまその編集・制作をやることになるうとは、ゆめゆめ思わなかった。異動して2年目、いよいよ図書館広報が足りないと感じ始めていた矢先の「松陰」復刊指令。熟練スタッフとともに、なんとか発行にこぎつけた。この歳になってワードのマニュアルガイドをめぐった。(もちろん本学所蔵のガイドブック。利用者の皆様、しばらくお借ります。ごめんなさい。)かつての編集スタッフから「復刊したね」と言っていただけよう内容の充実につとめていきたい。メール配信での発刊であるから、やはり速報性だろう。このPDFファイルをいつも添付してお届けするのでは、今の私の技術では残念ながら追いつかない。臨時速報は、ファイルなしでお届けすることになると思う。叱咤激励・ご支援・ご協力のほどを！(M)

＊

国士館大学附属図書館報「松陰 show-in」は、ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kokushikan.ac.jp/library/show-in.pdf>

＊

今後、送信を希望される方は、以下のアドレスからご登録ください。

libsyoin@kokushikan.ac.jp

●国士館大学附属図書館報「松陰 show-in」第 17 号●

2007 年 11 月 30 日発行

発行:国士館大学附属図書館

編集:「松陰」編集委員会

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

Tel03-5481-3216 Fax.03-5481-3214
